

# 令和4年度大阪府中学生チャレンジテスト(1・2年生) 結果について<東大阪市>

## ○調査目的 (大阪府教育委員会作成の実施要領より)

- ①大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- ②市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## ○調査概要

実施日	令和5年1月11日(水)
実施対象学年	中学校1・2年生
実施教科	中学校1年生:国語・数学・英語 中学校2年生:国語・数学・英語・理科・社会
調査実施生徒数	中学校1年生:国語:3000人 数学:3004人 英語:3013人 中学校2年生:国語:2974人 数学:2980人 英語:2986人 理科A:1537人 理科B:1449人 社会A:2700人 社会B:282人

## ○調査結果について

本調査で得られる結果は、学力の特定の一部であることや、平均正答率のみでは生徒の学力については測ることができないことを踏まえ、本調査から得られたデータをもとに学校・家庭・地域が学力に関する課題を共有し、さらなる連携を深め、生徒の学力向上に取り組むことを目的として分析を行った。

## ○今年度の結果概要

<教科>平均得点の対大阪府比は、昨年度から大幅な改善はみられなかった。特に、資料から読み取れる情報をもとに考察し、説明するといった思考力・判断力・表現力に課題が見られた。

<アンケート>「授業で図書館の資料やインターネットで調べる活動がある」と肯定的に回答した割合が大阪府より高かった。学校図書館の活用、一人一台のタブレット端末の活用が進んでいるものと考えられる。

<今後>主体的に学習に取り組む態度の育成のために、子どもたちが進んで学びに向かうよう、学習課題の提示の工夫などの更なる授業改善を進める。また、家庭との連携も含め、AIドリルの効果的な活用をさらに進める。

## <今年度の平均得点>中学校1年生

	国語	数学	英語
東大阪市	55.4	50.2	54.5
大阪府	58.6	55.0	59.1

## <今年度の平均得点>中学校2年生

	国語	社会A	数学	理科A	理科B	英語
東大阪市	55.8	40.8	42.6	47.4	48.5	49.5
大阪府	59.6	44.4	49.0	52.9	53.1	56.1

## ○令和4年度 大阪府 中学生チャレンジテスト —調査問題・正答(例)—

[https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/challenge\\_04\\_mondai.html](https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/challenge_04_mondai.html)

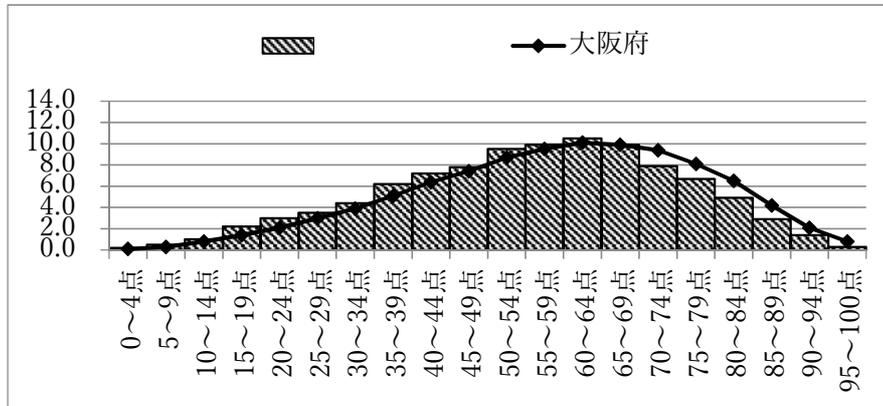


■平均得点

55.4点（東大阪市）

58.6点（大阪府）

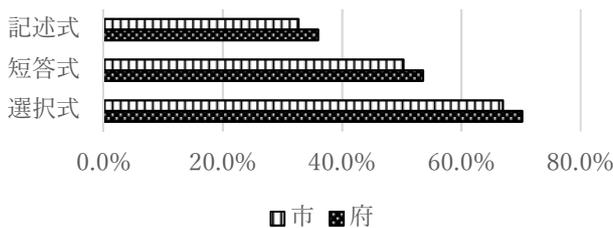
■得点別分布の割合



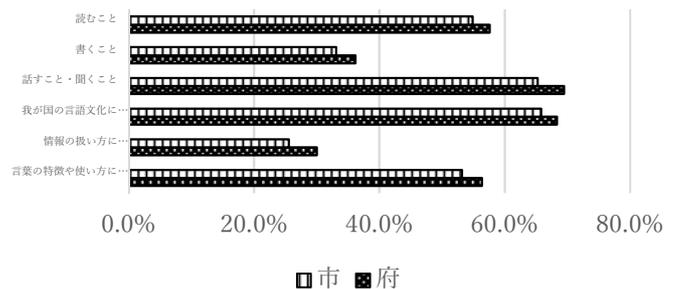
- ・分布の割合のピークが60～64点の山型となっている。
- ・大阪府の分布と比較して、70点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

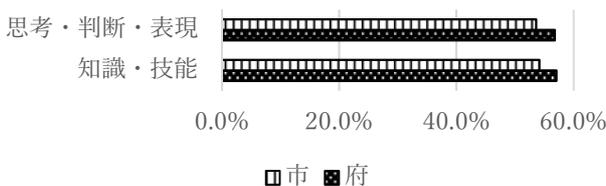
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



- ・学習指導要領の領域別得点率では、「話すこと・聞くこと」「我が国の言語文化に関する事項」が他に比べて高く、65%を超えている。
- ・評価の観点別得点率は、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、55%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

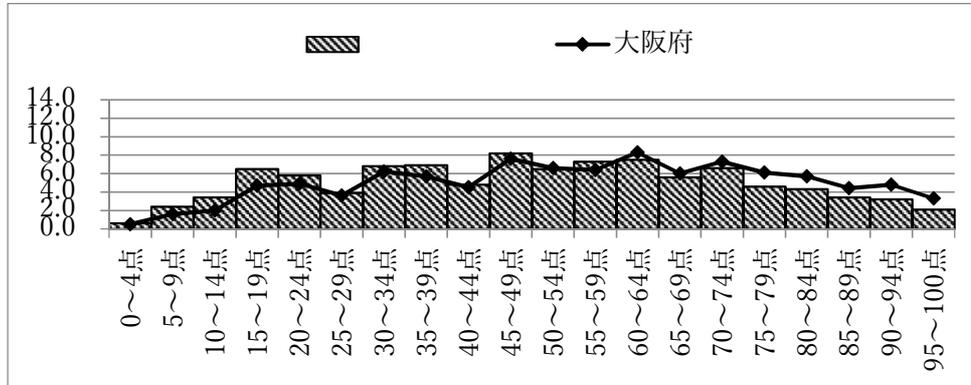
- 大問3(4)は「文章の概要を捉え、筆者の考えを理解し、その内容を要約して書く」設問で、正答率が2番目に低かった（【市】15.5%【府】18.5%）。必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することに課題がある。学習指導にあたっては、説明的な文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする言語活動を行うことが必要である。
- 大問4(2)は「読み手の立場に立って、説明文の文章を整える」設問で、正答率が最も低かった（【市】15.3%【府】17.9%）。書き手としてだけでなく、読み手の立場に立って自分の書いた文章を見直すことを通して、伝えようとするものが伝わるかを確認しながら文章を読み返すことが大切である。学習指導にあたっては、意見文、批評文、鑑賞文等を書く言語活動を通して、語句の役割や表現の技法を理解し、相手に応じた適切な文章を書く力を育成することが大切である。

■平均得点

50.2点（東大阪市）

55.0点（大阪府）

■得点別分布の割合

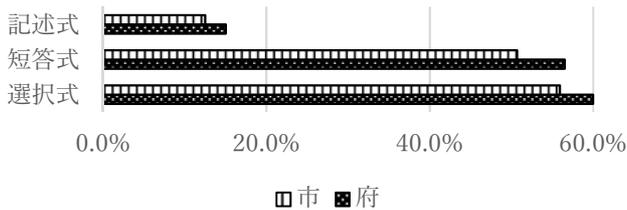


・府の分布、市の分布ともにグラフに凹凸があり、得点分布にバラつきがある。

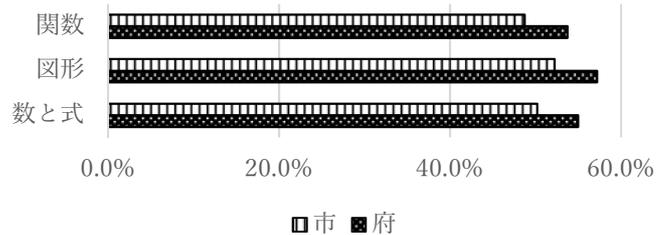
・府の分布と比較すると、75点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

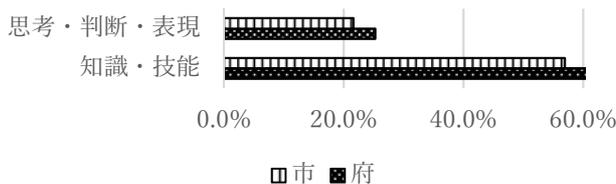
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



・学習指導要領の領域等別得点率は、すべての領域で50%を超えている。

・評価の観点別得点率では、「知識・技能」の得点率が、「思考・判断・表現」と比べて高く、約60%である。

■特徴的な傾向と対策

●大問7(2)は「文字を使った式をどのように導いたかを具体的に説明する」設問で、正答率が最も低かった（【市】11.1%【府】14.7%）。また、無解答率が最も高かった（【市】50.0%、【府】43.8%）。学習指導に当たっては、具体的な事象において、数量の関係を捉え、式に表したことを説明する場面を日々の授業の中で設定する必要がある。

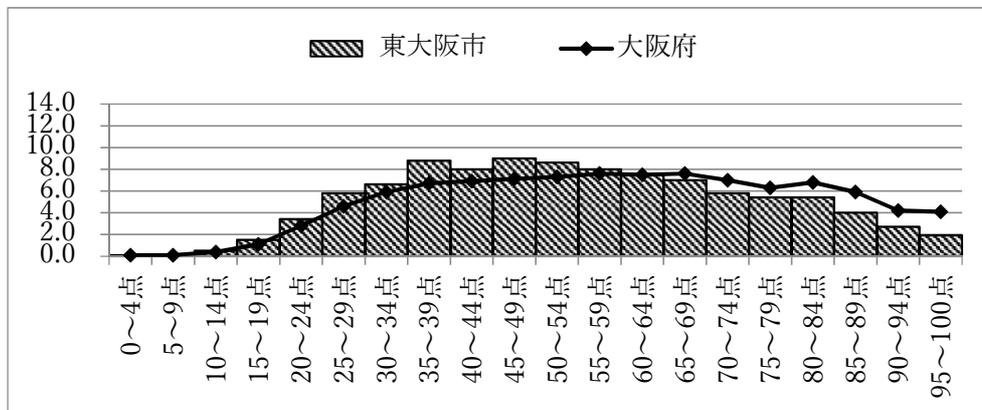
●大問4(2)は「比例  $y=ax$  のグラフ上に(5, -1)があるとき、 $a$  の値を求める」設問で、大阪府との正答率の開きが大きかった（【市】31.3% 【府】39.7%）。比例の関係を表すグラフの特徴を用いて比例定数を求める設問であり、基本的な知識・技能を確実な定着を図る工夫がより一層求められる。

■平均得点

54.5点（東大阪市）

59.1点（大阪府）

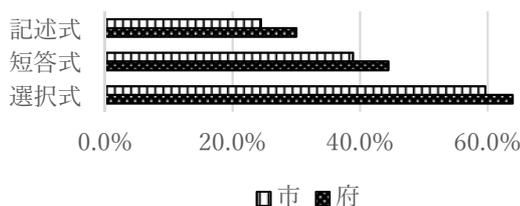
■得点別分布の割合



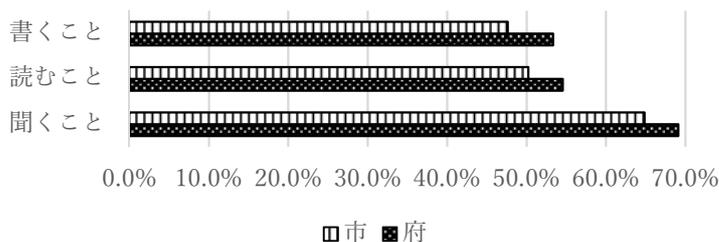
- ・分布の割合のピークが45～49点のなだらかな山型になっている。
- ・大阪府の分布と比較して、65点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

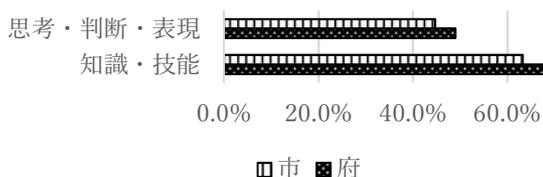
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



- ・学習指導要領の領域別の得点率では、「聞くこと」の得点率が、「書くこと」「読むこと」に比べて高く、65%である。
- ・評価の観点別得点率では、「知識・理解」の得点率が、「思考・判断・表現」に比べて高く、60%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

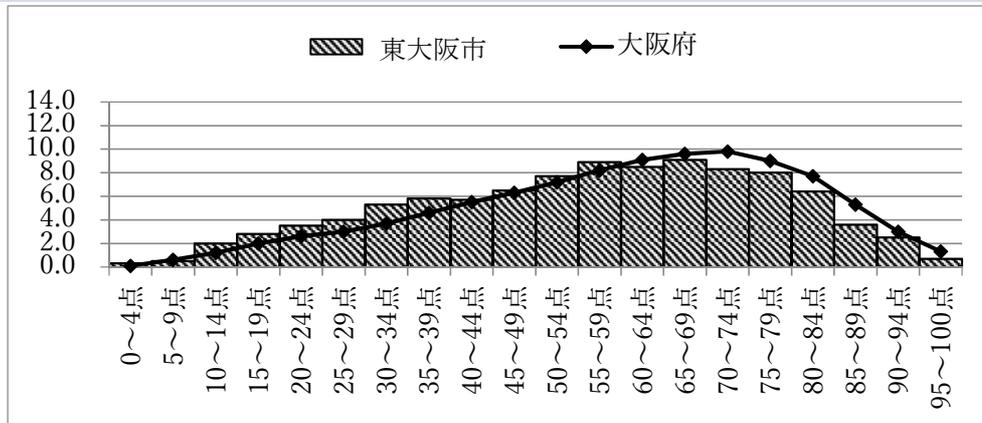
- 大問8は「日常的な話題についてのまとまりのある手紙を読み、内容を捉える」設問で、手紙の概要についての質問に対して正確に書く設問8(2)は、正答率が最も低かった（【市】14.2%【府】20.7%）。読み取った内容を、コミュニケーションの場面において正しく活用することに課題がある。「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能を統合的に使用した言語の使用場面で、文構造や文法事項を理解し、コミュニケーションの中で繰り返し使用することで、場面に応じた表現で話したり、書いたりする力をつけることが大切である。
- 大問9は「日常的な話題についてまとまりのあるスピーチを読み、内容を捉える」設問で、スピーチの概要についての設問9(4)は、正答率が低かった（【市】23.3%【府】26.8%）。ある程度の量で、まとまりのある文章を読む中、一文ずつの意味など特定の部分にのみとられるのではなく、英文を意味のまとまりごとにとらえ、概要や要点、必要な情報を読み取る力をつけることが大切である。

■平均得点

55.8点（東大阪市）

59.6点（大阪府）

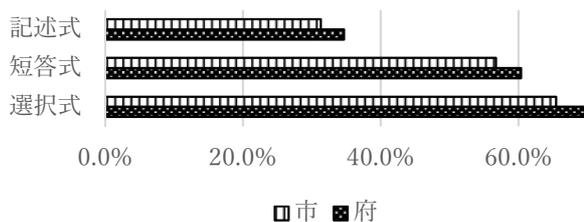
■得点別分布の割合



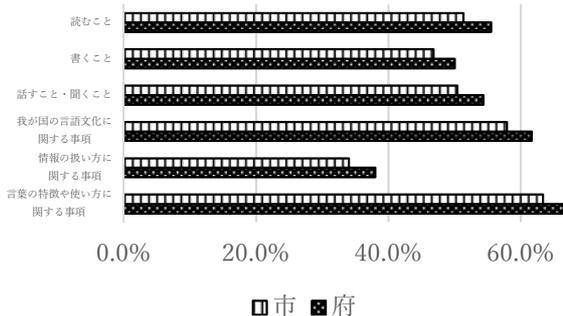
- ・65～69点をピークとする右寄りの山型となっている。
- ・大阪府の分布と比較すると、70点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

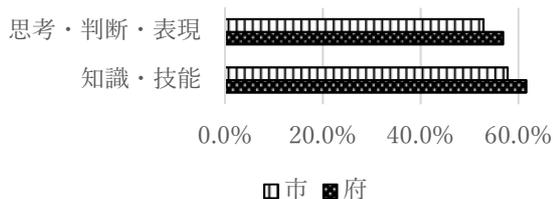
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



- ・問題形式別の得点率では、「選択式」が60%台に対して、「記述式」は30%台と低い。
- ・学習指導要領の領域別得点率では、「我が国の言語文化に関する事項」と「言葉の特徴や言い方に関する事項」の得点率が他に比べて高い。

■特徴的な傾向と対策

- 大問2(4)Iは「説明文の内容について書かれた文章の空欄に当てはまる言葉を、指定された文字数で書く」設問で、正答率が最も低かった（【市】17.3%【府】22.7%）。必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することに課題がある。学習指導にあたっては、説明や記録などの文章を読むときは、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする言語活動を設定することが大切である。
- 大問3(5)は「スピーチに対するアドバイスを受けて、スピーチの内容を条件に従って言いかえる」設問で、正答率が2番目に低かった（【市】21.6%【府】23.5%）。聞き手を意識し、自分の考えが明確に伝わるように表現を工夫することに課題がある。学習指導にあたっては、スピーチ等の言語活動を通して、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるために、聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、資料を用いて表現を工夫したりすることが大切である。

第2学年 社会A

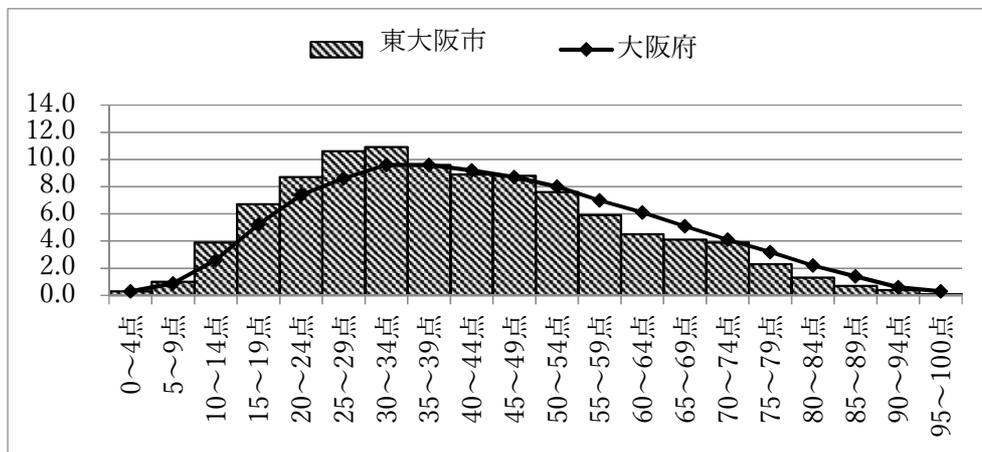
※社会Bを選択した学校が極端に少ないため、社会Aのみ記載

■平均得点

40.8点（東大阪市）

44.4点（大阪府）

■得点別分布の割合

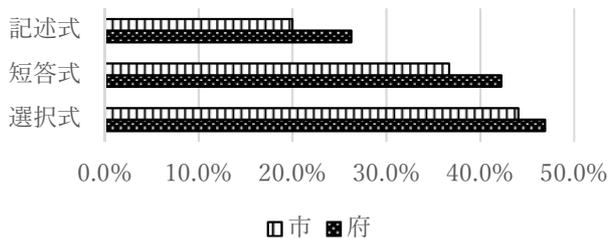


・分布の割合のピークが30～34点で、府と同じような左寄りの山型となっている。

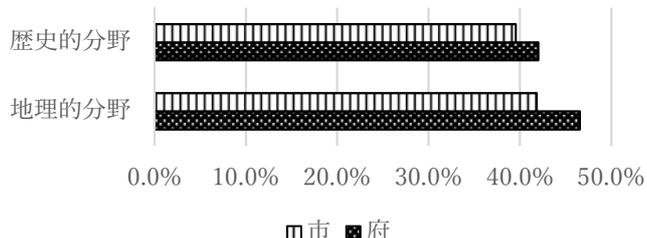
・府の分布に比べて、10～34点までの分布が多い。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

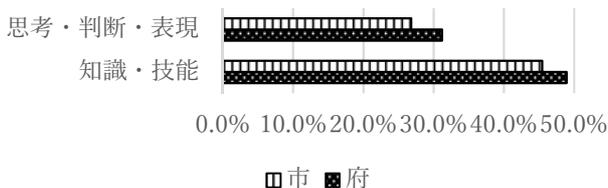
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



・学習指導要領の領域等別得点率では、「地理的分野」と得点率が、20.3%と他に比べて低い値である。

・評価の観点別得点率では、「知識・理解」の得点率が、「思考・判断・表現」に比べて高く、45%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

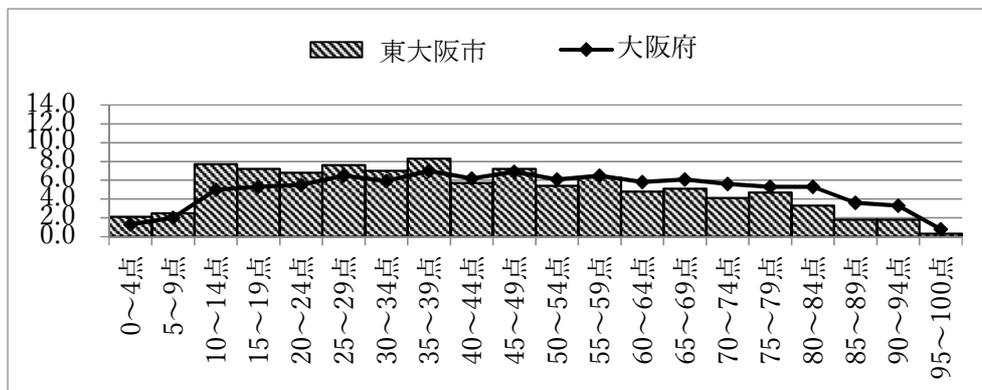
- 設問3(2)①は、無回答率が最も高く（【市】55.3%【府】48.6%）、正答率が最も低い設問（【市】9.0%【府】11.0%）であった。大名について述べた文章中に入る適切な語を書く設問で、御三家についての理解が問われた設問である。AIドリル等を効果的に活用しながら、知識の定着を図る必要がある。
- 記述式問題<全2問>の正答率が低く、資料から読み取れる情報をもとに考察し、説明することに課題がある〔2(1)②(i)【市】22.9%【府】30.2%、2(2)③【市】17.6%【府】23.1%〕。社会的な思考・判断・表現の理解を深めるため、社会的な諸事情を題材に、課題を追究したり解決したりする活動が必要になる。様々な情報(図や表等)から必要な情報を読み取る活動、得た情報を多面的・多角的に考察する活動、考察結果を発表する場面や条件に従って書く活動等、自分の意見や考えを表現する活動を多く行うことが必要である。

■平均得点

42.6点（東大阪市）

49.0点（大阪府）

■得点別分布の割合

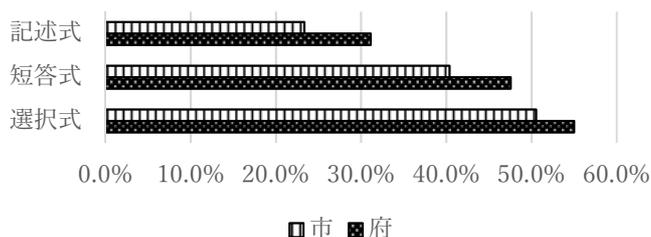


・府の分布、市の分布ともにグラフに凹凸があり、得点分布にバラつきがある。

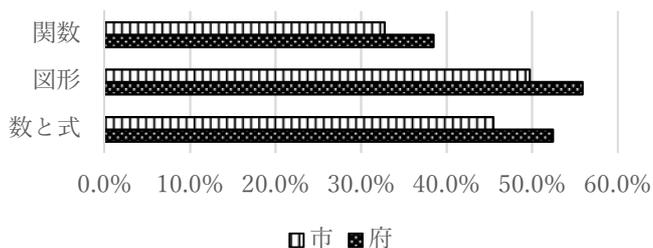
・府の分布と比べると、80点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

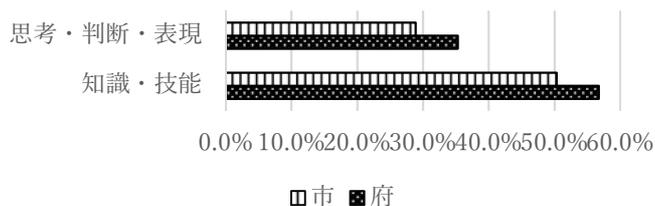
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



・評価の観点別得点率では、「知識・技能」の得点率が、「思考・判断・表現」に比べて高く、50%を超えている。

・学習指導要領の領域等別得点率では、「図形の得点率」が、「関数」「数と式」に比べて高く、約50%である。

■特徴的な傾向と対策

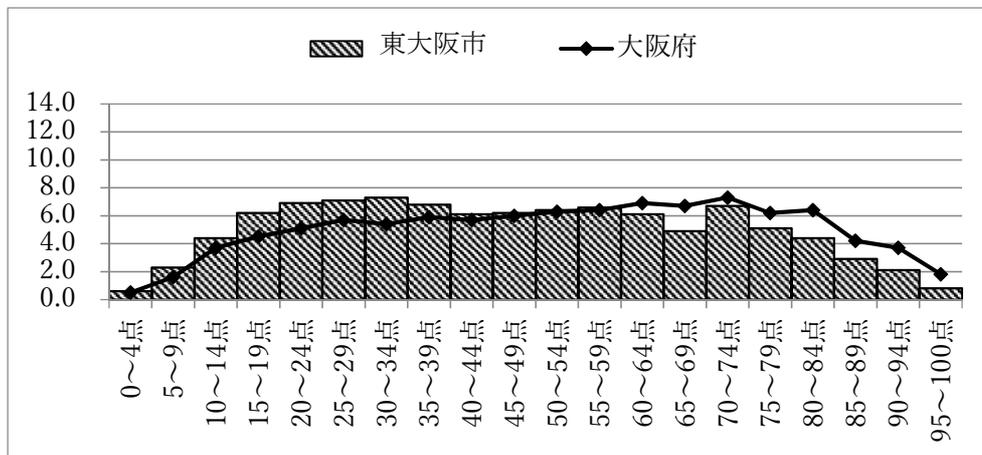
- 大問6(2)は「作図の方法から導かれる線分を書く」設問で、大阪府と正答率の開きが大きかった（【市】40.5%【府】49.8%）。証明で用いる等式を作図の方法から導かれる線分を書く設問であり、道筋を立てて考える力に課題がある。学習指導に当たっては、数学的な推論の過程を他者に分かりやすく表現する活動を授業の中で設定することが必要である。
- 大問7(2)(i)「時間と道のりを表すグラフの2直線が平行になる理由を説明する」設問は、無解答率が高かった（【市】59.2%【府】51.3%）。グラフの特徴を数学的に説明することに課題がある。学習指導に当たっては、式やグラフの特徴を数学的に解釈し読み取らせることや説明する活動を日々の授業の中で適宜設定することが大切である。

■平均得点

47.4点（東大阪市）

52.9点（大阪府）

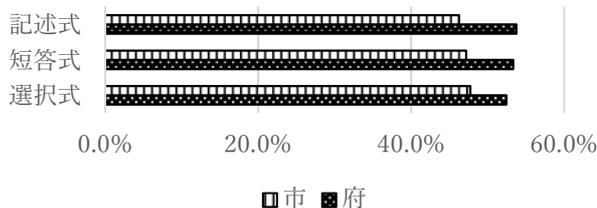
■得点別分布の割合



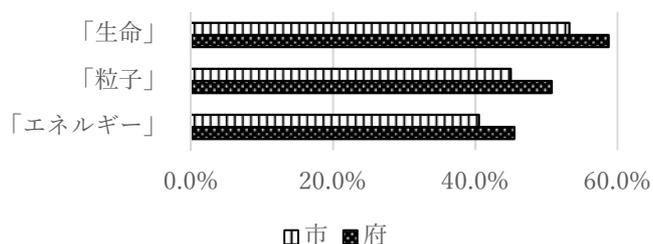
- ・30～34点をピークとしたなだらかな山型となっている。
- ・府の分布と比較して、75点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

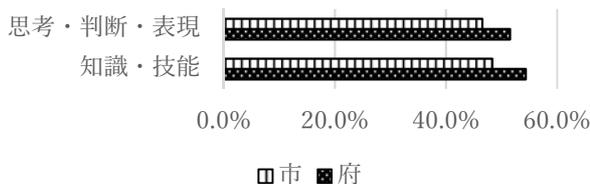
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



- ・評価の観点別得点率では、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、約50%である。
- ・学習指導要領の領域等別得点率では、「生命」の得点率が、「粒子」「エネルギー」と比べて高く、50%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

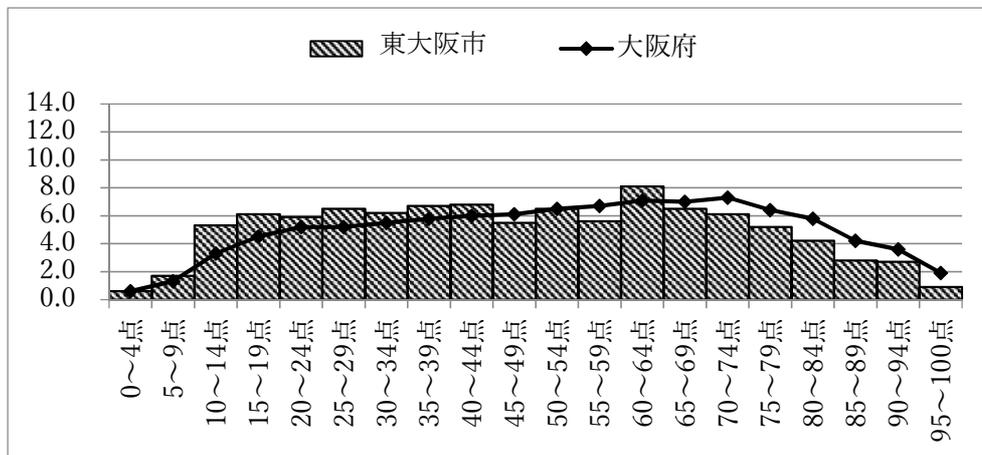
- 大問5(1)②は「抵抗の大きさが異なる場合の、加わる電圧の大きさと流れる電流の大きさとの関係を表すグラフをかく」設問で、無解答率が高かった（【市】42.2%【府】34%）。流れる電流の大きさと加わる電圧の大きさとの関係を表すグラフをかくことに課題がある。学習指導に当たっては、自然の事象・現象に関わり、観察・実験を行い、その結果を分析して解釈し規則性を見いだしたり課題を解決したりするように学習活動を工夫する必要がある。
- 大問5(1)③は「流れる電流の大きさが2倍になったときに消費される電力の大きさが何倍になるかを選ぶ」設問で、最も正答率が低かった（【市】15.9%【府】18.2%）。流れる電流の大きさと消費される電力の大きさとの関係について考える設問であり、何が問われているかを捉える力を育む授業改善が必要である。

■平均得点

48.5点（東大阪市）

53.1点（大阪府）

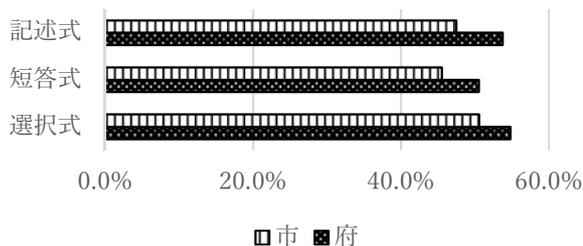
■得点別分布の割合



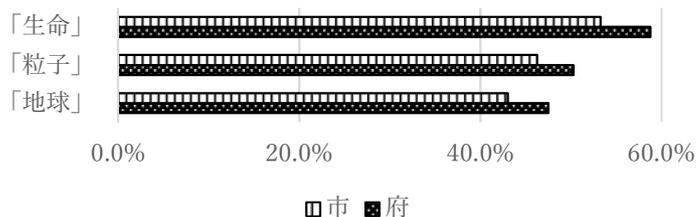
- ・60～64点をピークとしたなだらかな山形となっている。
- ・府の分布と比較して、70点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

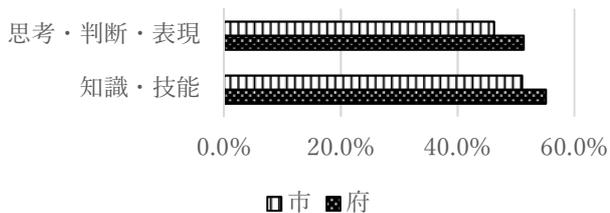
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



- ・学習指導要領の領域等別平均点では、「生命」の得点率が、「粒子」「地球」に比べて高く、50%を超えている。
- ・評価の観点別得点率では、「知識・技能」が「思考・判断・表現」に比べて高く、50%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

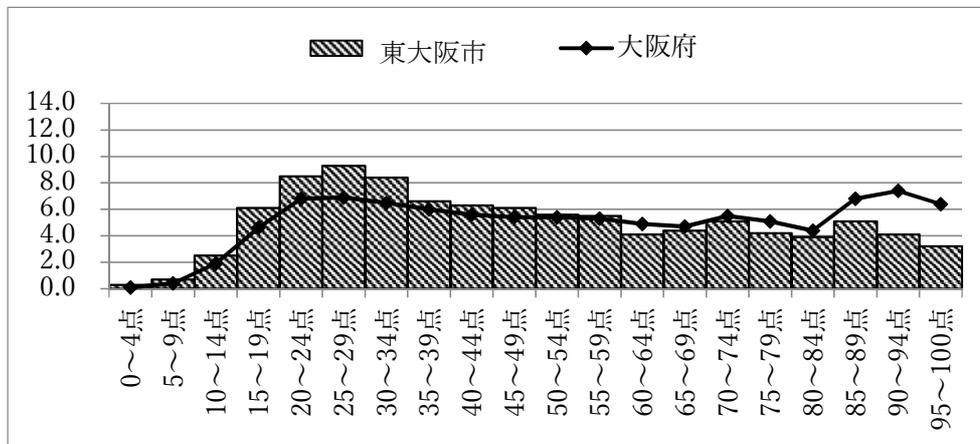
- 大門1(1)③は「刺激に対して無意識に起こる反応の名前（反射）を答える」設問で、大阪府との正答率の差が最も大きかった（【市】66.3%【府】75.5%）AIドリル等を効果的に活用しながら、知識の定着を図る必要がある。
- 大問2(2)③は「サツマイモとヒトそれぞれの体内で起こるデンプンの変化について共通することを20字以内で書く」設問で、無回答率が高かった（【市】38.2%【府】31.7%）。また、正答率も府平均と開きがあった（【市】47.0%【府】52.8%）。根拠に基づいて要約する力に課題があると言える。学習指導にあたっては、レポートの作成や発表を適宜行い、要約する力を育成する授業改善が求められる。

■平均得点

49.5点（東大阪市）

56.1点（大阪府）

■得点別分布の割合

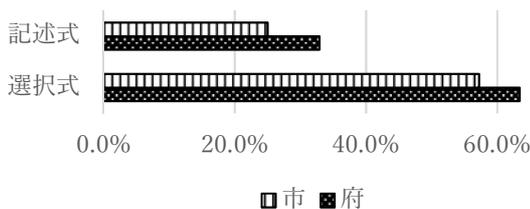


・25～29点をピークとする左寄りの山型となっている。

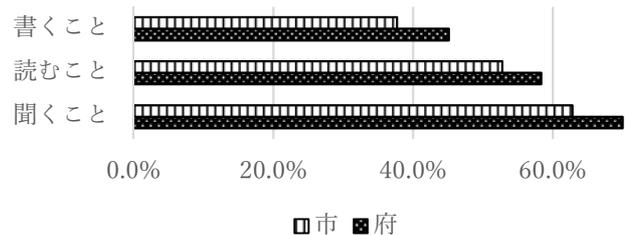
・府の分布に比べ、85点以上の分布が少ない。

■学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の得点率

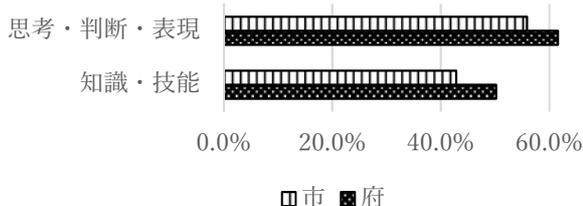
問題形式別得点率



学習指導要領の領域等別得点率



評価の観点別得点率



・学習指導要領の領域別の得点率では、「聞くこと」の得点率が、「書くこと」「読むこと」に比べて高く、60%を超えている。

・評価の観点別得点率では、「思考・判断・表現」の得点率が、「知識・技能」に比べて高く、55%を超えている。

■特徴的な傾向と対策

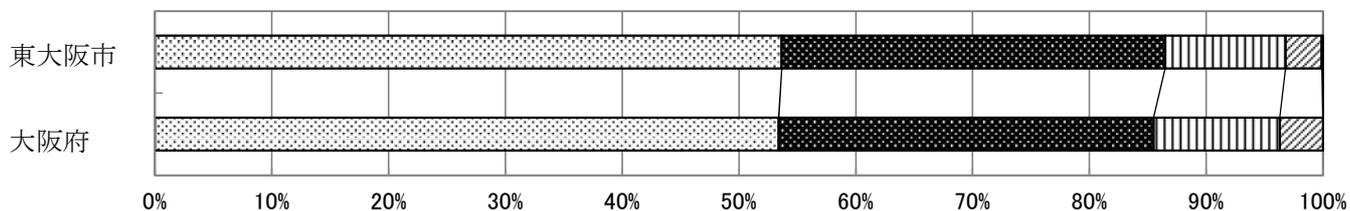
- 大問5は「与えられた情報に基づいて、正しい英語で書く」設問である。日本語のメモの内容に合うように、指定された語数の正しい英語で書く設問5(3)は、最も正答率が低かった（【市】5.2%【府】6.6%）。伝えたい情報を正確に捉え、文法事項を正しく用いて、文を構成することに課題がある。文構造や文法事項については、使用されている場面や状況と結びつけて理解し、言語活動を通して場面や状況に応じて正確で、適切な表現で書く活動を行う必要がある。
- 大問6は「日常的な話題についてまとまりのある会話文を読み、内容を読み取る」設問である。会話文中の一部に当てはまる英語を答える設問6(2)は、正答率が低かった（【市】29.3%【府】35.2%）。会話の流れを正しく理解し、概要や要点を読み取ることに課題がある。まとまった量の英文を、意味のかたまりごとに捉える必要がある。また、言語活動を通して英語を使用しながら、コミュニケーションの場面や状況に応じた正しい表現を身につける必要がある。

# アンケート結果

## ■ 中学校 1 年生

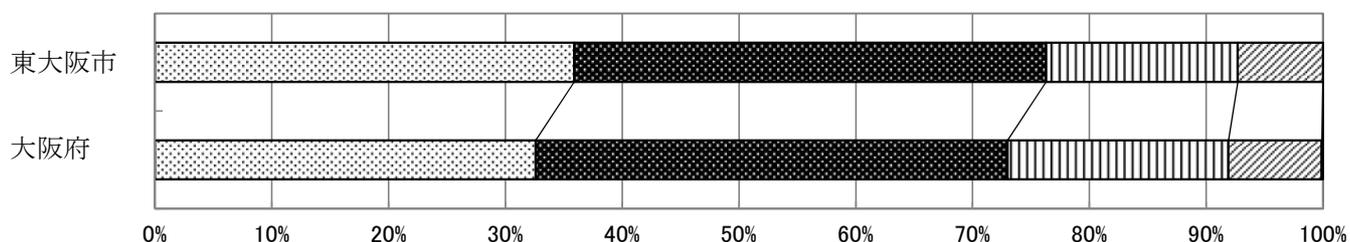
・授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



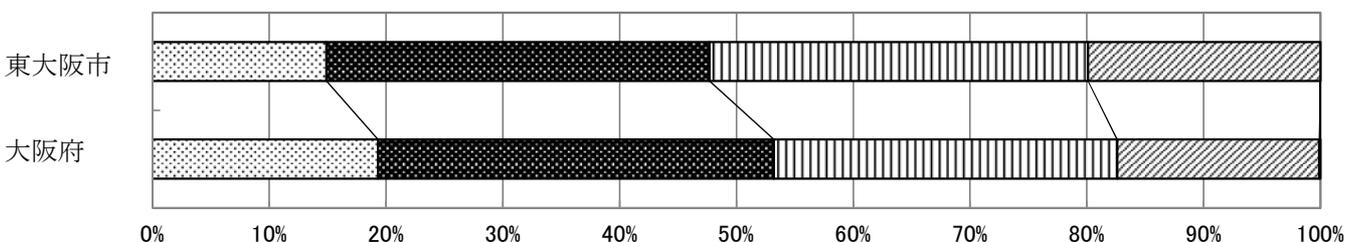
・授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



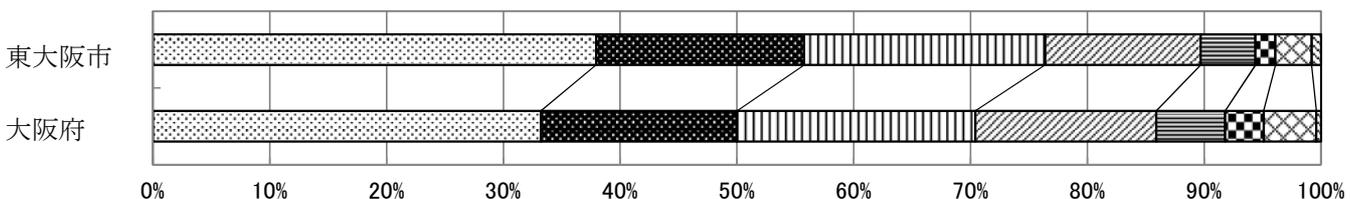
・自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



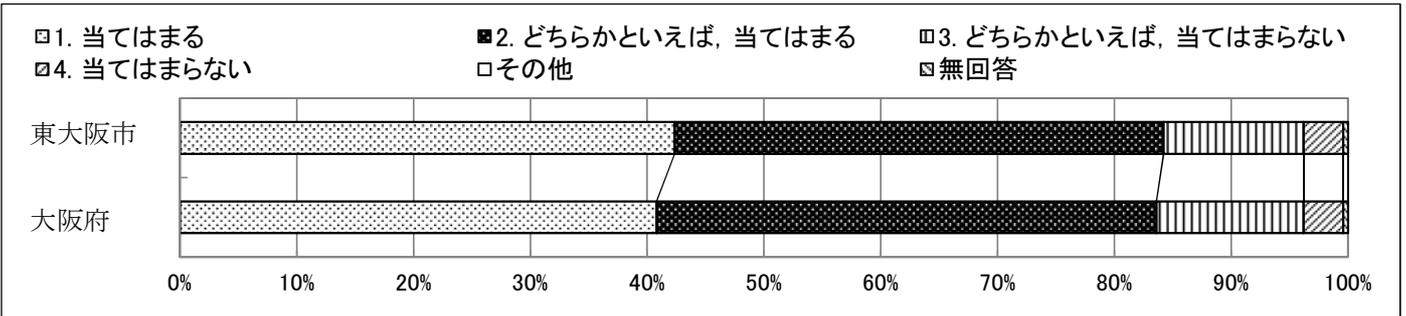
・普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。

- 1. 4時間以上
- 2. 3時間以上、4時間より少ない
- 3. 2時間以上、3時間より少ない
- 4. 1時間以上、2時間より少ない
- 5. 30分以上、1時間より少ない
- 6. 30分より少ない
- 7. 携帯電話やスマートフォンを持っていない
- 無回答
- その他

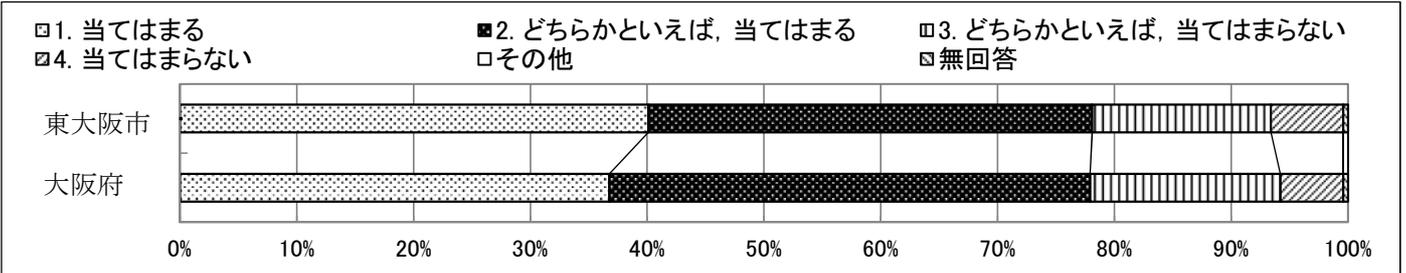


## ■中学校2年生

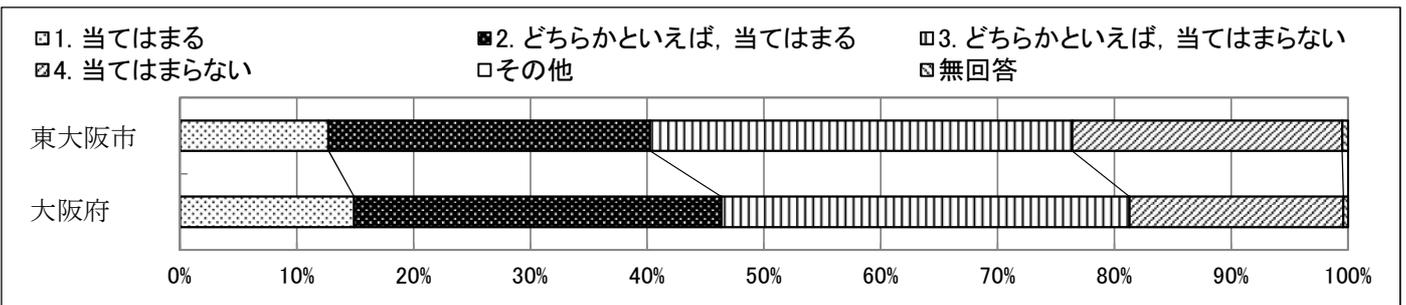
・授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



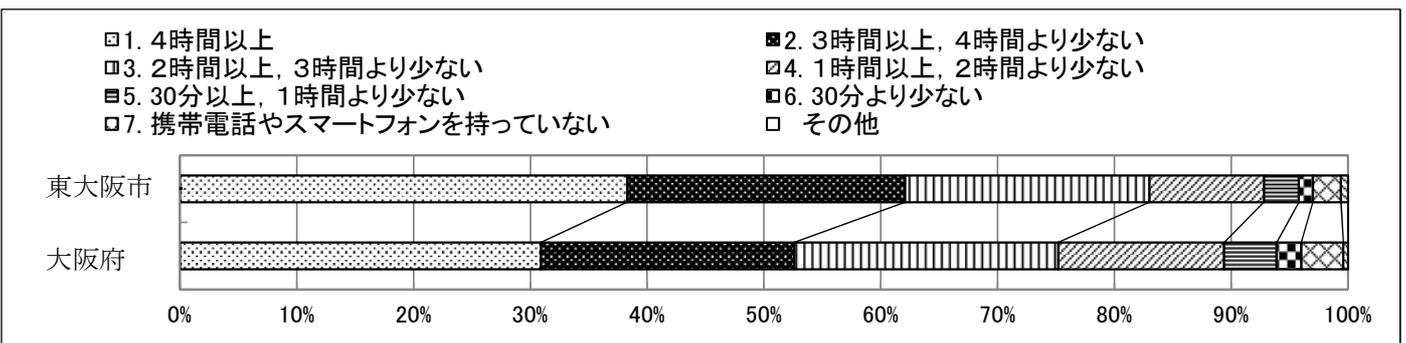
・授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



・自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



・普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。



## ■特徴的な傾向と対策

・1.2年生ともに「授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。」の項目では、「当てはまる」という強い肯定的回答率が大阪府より高くなっている。学校司書の配置や学校図書館の活用、一人一台のタブレット端末の活用が進んでいるものと考えられる。一方で「自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。」は大阪府より低い肯定的回答率となり、「普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。」については、大阪府より多くの時間使用している。主体的に学習に取り組む態度の育成のために、子どもたちが進んで学びに向かうような学習課題の提示や更なる授業改善、また家庭との連携を密にしていくことが求められる。